

【認知症予防キャラバン】

コグニサイズ教室の「あれ」や「これ」

～令和5年度講師アンケートから見える事～

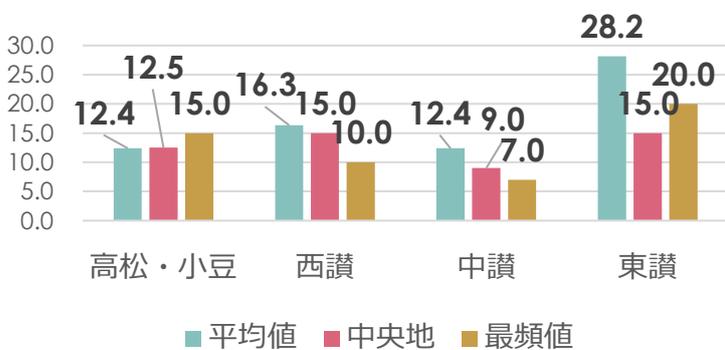
実績

依頼件数：74件（高松;13件、東讃;13件、中讃;39件、西讃;9件）

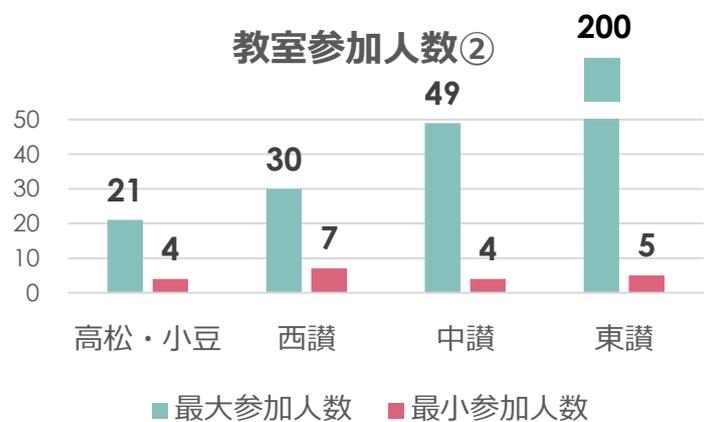
延べ参加者数：1136名 **派遣講師数**：80名 **アンケート数**：67件

Q1. 教室にはどのくらいの人に参加するの？

教室参加人数①

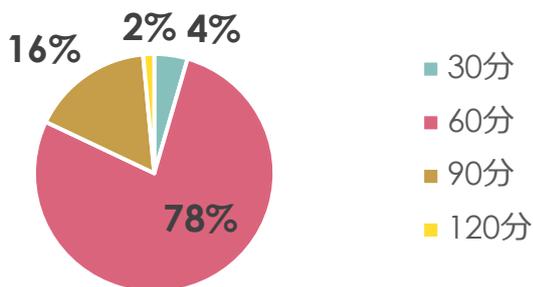


教室参加人数②

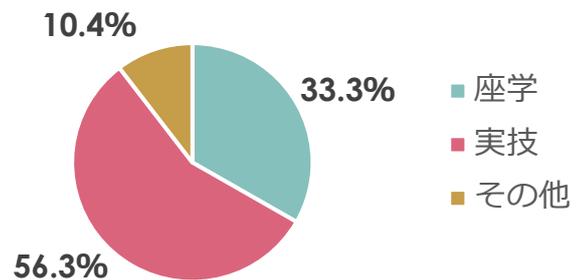


Q2. 1回の教室の実施時間（依頼時間）はどのくらい？

依頼時間



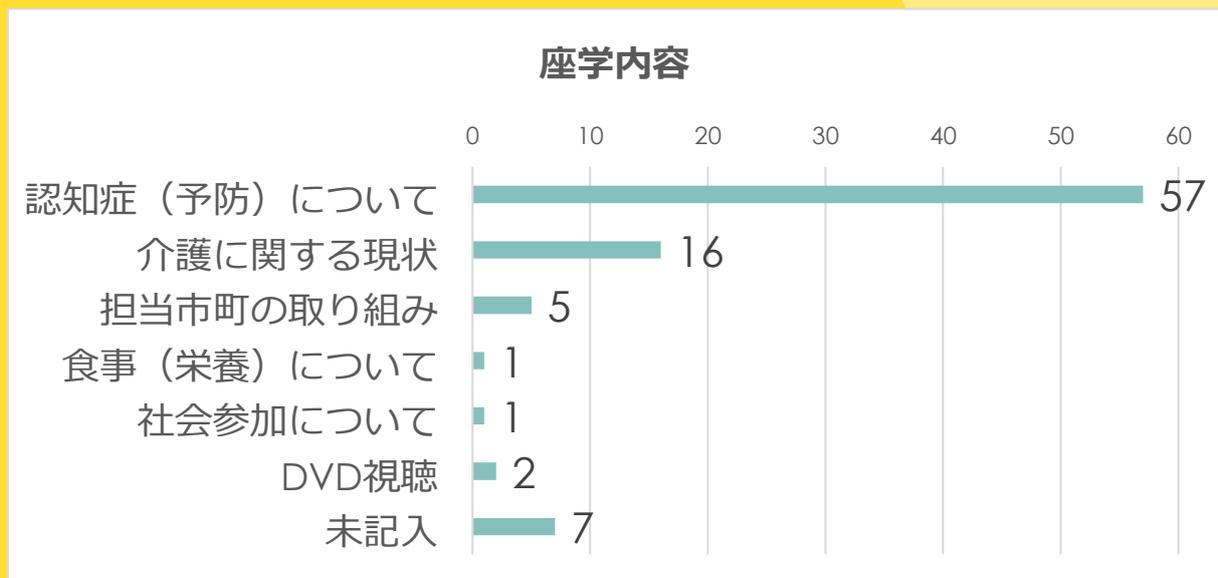
依頼時間における構成割合



- ✓ 教室依頼は、中讃地区が最も多く、他の地区は10件程度
- ✓ 教室参加人数は、12～15名平均で、最大は200名、最小は4名
- ✓ 1つの教室の依頼時間は60分が約8割を占め、各教室での構成は、依頼時間に対し30%を座学として、50%以上を実技として配分している教室が多かった

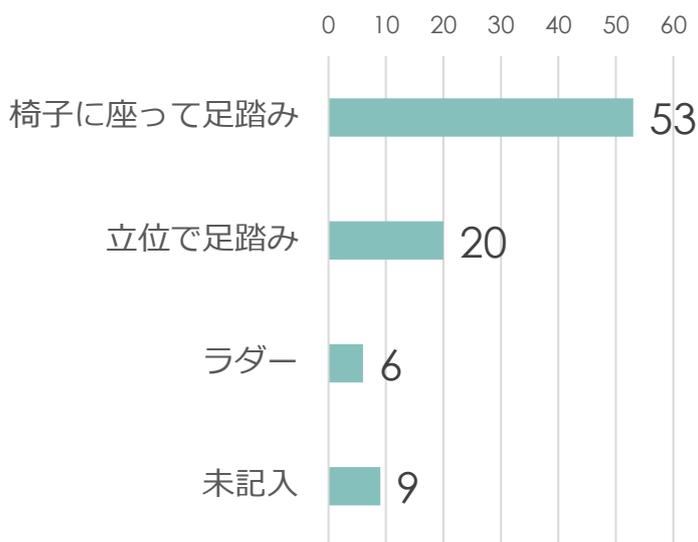


Q3. 座学では、どんな話をしているの？

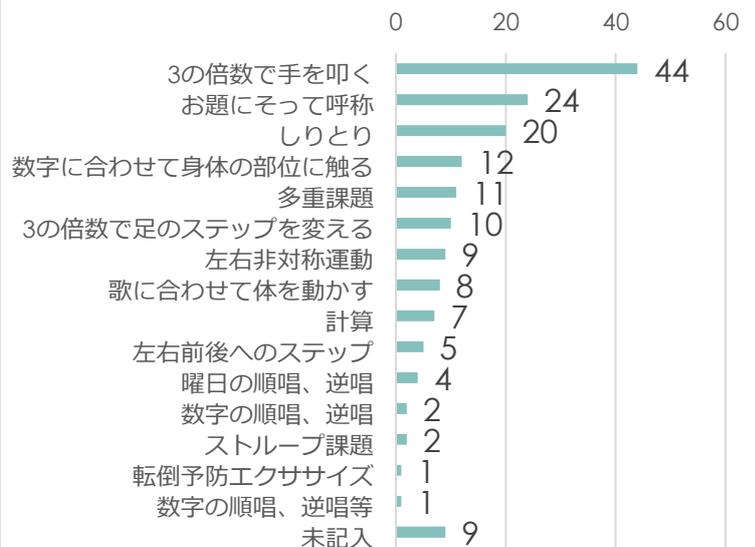


Q4. コグニサイズではどんな事をしているの？

運動課題



認知課題



【座学】 主に配布資料を準備して実施

- ✓ ほとんどの教室で認知症について、介護の現状を踏まえて説明していた
- ✓ 講師によっては市町の実情を織り交ぜていることも



【実技】

- ✓ 運動課題は、「椅子に座っての足踏み」を基本に、転倒に注意しながら「立位」や「ラダー」を用い、運動課題の難易度を高めている教室もみられた
- ✓ 認知課題は、「3の倍数で手を叩く」「お題にそって呼称」「しりとり」が多く選択
- ✓ 会場が和やかな雰囲気になるよう課題や難易度を工夫している意見が多かった